

みなさん、こんにちは。今日は「すみません」という言葉についてお話しします。

日本人はよく謝る、と聞いたことはありますか。その時、「すみません」をよく使います。

でも、この「すみません」はたくさんの意味がある言葉です。今回はその秘密を探ります。

1. 謝るときの「すみません」

「すみません」という言葉は謝るときに使う言葉です。まず、この意味から見ます。

何か悪いことをしたとき日本人は「すみません」と言うことが多いです。

例えば、道を歩いていて他の人にぶつかりました。そんなとき、すぐに言います。

これは「ごめんなさい」という気持ちを伝えます。相手を気遣う言葉です。

または、お店の食器を間違えて割ってしまった。そんな場面でも使われます。

自分の失敗を認めて、謝る気持ちを表します。とても大切なことです。

電車の中で、人の足を踏んでしまうこともあります。これも、すぐに謝ります。

相手に迷惑をかけました。だから、謝るのですね。素直な気持ちが大切です。

日本人は謝るときに、よくおじぎをします。おじぎは、頭を下げることです。

言葉で「すみません」と言い行動でも気持ちを表します。とても日本らしい文化です。

失敗がそれほど大きくないときは、少し頭を下げます。これは会釈です。

会釈は、軽いあいさつでも使われることがあります。便利な行動の一つです。

でも、本当に申し訳ないと思うときは、深く下げます。ゆっくりおじぎをするのです。

この深いおじぎから、心から謝りたい気持ちが相手に伝わるでしょう。

ところで、「ごめんなさい」も謝るときに使う言葉です。少しだけ違いがあります。

「ごめんなさい」という言葉は家族や友達によく使います。親しい関係で使うのです。

一方、「すみません」はもっと丁寧な言い方です。誰にでも使うことができます。

お店の人や、会社の人、知らない人にも使えます。とても広い場面で聞く言葉です。

ですから、旅行や仕事で日本に来たときにも覚えておくと便利です。

この言葉の元々の意味は「気持ちが済みません」です。「済みません」は、終わりません、です。

あなたに迷惑をかけたので私の気持ちが落ち着きません。そういう意味を持っています。

ただ謝るだけでなく、自分の心の状態を相手に伝えているのです。

日本では、他の人に迷惑をかけることを良くないことと考えます。

だから、失敗したときにはすぐに謝る文化があります。人間関係を大切にします。

昔から「和」というものを大事にしてきました。「和」は、みんな仲良くすることです。

謝ることは、相手との良い関係を続けるためにとても必要なことでした。

だから、日本人はよく「すみません」と言うのです。文化に深く関係しています。

ここまで、謝るときの「すみません」を見ました。これが基本の意味です。

でも、日本人はいつも謝っているわけではありません。

実は、うれしいときにも「すみません」と言います。不思議に思いませんか。

プレゼントをもらったとき「すみません」と言うのです。これは、なぜでしょうか。

悪いことはしていません。なのに、謝るような言葉を使うのです。

ここにも、日本の文化が深く関係しています。相手を大切に作る心です。

感謝しているときにも「すみません」を使います。「ありがとう」の意味です。

2. ありがとうの「すみません」

「すみません」という言葉は感謝するときにも使います。これはとても面白い点です。

例えば、友人からプレゼントをもらいました。そのとき、こう言います。

「わあ、すみません。本当にうれしいです」こんな風に使うのです。

これは「ありがとう」の気持ちを表しています。でも、なぜ謝るのでしょうか。

相手が自分のために、時間やお金を使いました。そのことに気を使います。

「私のために、わざわざ時間を使わせてごめんなさい」そんな気持ちが入っています。

だから、感謝の気持ちと申し訳ない気持ちと一緒にいるのです。

他にも例を見てみましょう。電車で席を譲ってもらいます。これもよくある場面です。

お年寄りや、体の不自由な人が席に座れるように若い人が席を立ちます。

そのとき、座る人は「すみません」と言います。そして、軽く頭を下げます。

これも「ありがとう」と同じ意味で使われています。親切への感謝の言葉です。

でも、そこには、「あなたを立たせてしまい申し訳ないです」もあります。

相手の優しさを感じると同時に、相手への負担も考えているのですね。

このように、感謝を表す「すみません」という言葉は相手への深い配慮です。

単に「ありがとう」と言うよりも、もっと謙虚な気持ちを伝えられます。

謙虚とは、自分を偉いと思わない、静かな態度です。日本では良いこととされます。

良いこととされる心や行動を、美德と言います。昔から大切にされています。
この「すみません」には「恐縮です」という言葉の気持ちが近いです。

「恐縮です」とは、相手の親切が自分にはもったいない、と感ずることです。
相手をとても尊敬して、自分はまだ下だと考える気持ちの表れなのです。

もちろん、日本人も「ありがとう」を言います。場面によって使い分けます。
友達がドアを開けてくれた。そんな小さな親切には「ありがとう」が自然です。
でも、会社の偉い人や知らない人からの親切には「すみません」も丁寧です。

「すみません、助かります」「すみません、感謝します」こんな言い方もできます。

相手や、状況によって言葉を選ぶことが大切です。コミュニケーションの技術です。

この感謝と謝罪が一緒になった表現は、外国の人には複雑でしょう。

でも、この言葉の裏には相手への敬意があります。そして、気遣う心です。

相手に迷惑をかけたくないという気持ちが強いです。だから、つい口に出ます。

プレゼントをもらうことや席を譲ってもらうことは迷惑なことではありません。

でも、相手の時間や手間を使わせたと感ずてしまう。それが日本人の感ずです。

この感ずを理解すると、日本人の考え方がもっとよく分かるかもしれません。

「すみません」という一言にたくさんの意味がこめられ使われているのですね。

謝るときに使う言葉。そして、感謝するとき。意味が全く違いました。

でも、実はもう一つ、別の使い方があります。誰かに話しかけるときです。

レストランで店員を呼ぶ。道で知らない人に質問する。そんな場面で使うのです。

次は、この使い方について詳しく見ていきましょう。お願いするときの言葉です。

3. お願いするときの「すみません」

「すみません」には、もう一つ大切な使い方があります。人に話しかけるときです。

これは、誰かの注意を自分に向けたいときに使うとても便利な言葉です。

例えば、レストランで店員さんを呼びたいとき。手をあげてこう言います。

「すみません、注文いいですか」ととてもよく聞く表現です。すぐに気づいてくれますよ。

また、道に迷ったときもこの言葉が役立ちます。知らない人に尋ねられます。

「すみません、駅はどこですか」こうして会話を始めます。とても丁寧な聞き方です。

では、なぜここでも謝る言葉を使うのでしょうか。不思議に思うかもしれません。

それは、相手の時間を少しだけもらうからです。相手は何かをしていました。

その人の時間を止めて、自分のために使わせます。それを申し訳なく思うのです。

「お忙しいところすみません」という気持ちが隠れています。これも相手への配慮ですね。

日本語には、他にも「あのう」という言葉があります。

「あのう」も話しかけるときに使うことができます。でも、少しだけ違います。

「あのう」は、少しだけ言いにくいことを言うときやためらう気持ちを表します。

一方、「すみません」はもっとはっきりと、相手に用事があるときです。

だから、お店で人を呼ぶときには「すみません」がとても自然に聞こえます。

この使い方は、英語の「Excuse-me」という言葉と意味がとても近いです。

「失礼します」という意味で相手の注意を引きます。とても便利な言葉ですね。

でも、日本語の背景には「迷惑をかけるかもしれない」という気持ちがあります。

だから、ただの呼びかけだけではありません。謙虚な姿勢を示しています。

相手に何かをお願いする。それは、相手の助けが必要だということです。

だから、丁寧な言葉で始めることが大切になります。良い関係を作る第一歩です。

日本では、このように会話を始める前に一言付け加えることが多いです。

これを「クッション言葉」と呼ぶことがあります。衝撃を和らげる言葉です。

いきなり用件を言うと、相手が驚くかもしれません。少し失礼に聞こえます。

「すみません」と言うことで、相手は「何か用事かな」と心の準備ができます。

これが、人との会話をうまく進めるための日本の工夫なのです。

相手の立場になって考える。相手の気持ちを想像する。それがとても大事なことです。

「すみません」という一言で、その後の会話の雰囲気がとても良くなるでしょう。

ここまで、三つの使い方を見てきました。謝罪、感謝、呼びかけです。

同じ「すみません」なのに場面によって意味が変わる。日本語の面白いところですね。

では、これらの言葉をどうやって使い分けたら良いのでしょうか。

日本人は、表情や声の調子でも意味を伝えます。言葉だけではありません。

次はこの点について詳しく見ていきましょう。言葉の使い分けについてです。

4. 言葉の使い分け

一つの言葉に、三つの違う意味がありました。どう区別するのでしょうか。

それは、話すときの状況や声の調子、表情です。これらがヒントになります。

謝るときの顔を見ます。困ったような顔や、真剣な表情をしています。

声は少し小さくなり、低くなることが多いです。反省しているからです。

感謝するときは違います。笑顔で言うことが多いです。うれしい気持ちだからです。

声も少し明るくなります。そして、やわらかい雰囲気です。

人を呼ぶときは、相手に聞こえるように話します。はっきりした声を出します。

相手のほうを見て言います。用事があることを体全体で伝えるのです。

言葉の意味だけでなく、その場の状況を見ます。何が起きたか考えます。

日本人は、言葉以外の情報も大切にします。空気を読むと言います。

空気を読むとは、その場の雰囲気を理解すること。言葉にしなくても分かります。

もちろん、他の言葉を使うこともできます。場面に合わせて選びます。

仕事で大きな失敗をして謝るときがあります。そのときは別の言葉です。

「申し訳ありません」を使うと、とても丁寧です。深く反省しています。

逆に、友達に軽く謝る。そんなときは「ごめん」と短く言うこともあります。

感謝をはっきりと伝えたいときもあります。そのときは、あの言葉です。

「ありがとうございます」が一番分かりやすいです。間違えて伝わりません。

「すみません、ありがとう」と続けて言う人もいます。両方の気持ちを伝えます。

人を呼ぶときには、もし名前を知っていたら名前を呼ぶのが良いです。

「田中さん」と呼びます。これなら、相手はすぐに自分だと分かりますね。

お店で店員を呼ぶとき「お願いします」とも言うことができますよ。

どの言葉を使うかは、相手との関係で決まります。親しいか、そうでないか。

会社の上司やお客さんには丁寧な言葉を選びます。失礼がないようにします。

家族や仲の良い友達にはもっと簡単な言葉を使います。自然な会話になります。

日本人の会話を、よく聞いてみてください。どんな音で言っていますか。

おじぎの深さも見ます。表情もみてください。言葉以上の情報があります。

便利な「すみません」ですが他の言葉も覚えると、会話がもっと上手になります。

言葉の選び方には、日本人の心が表れます。相手を思う心です。

日本人は相手のことをいつも考えて話します。それが文化の基本です。

次は、この言葉の裏にある日本人の心について最後に深く考えましょう。

5. 相手を大切にすること

「すみません」という言葉は日本の心を表しています。それは、相手を思う心です。

この言葉の元には「迷惑をかけたくない」という強い気持ちがあります。

日本社会では、昔から調和を大切にしてきました。調和とは、良い関係のことです。

みんなが気持ちよく生活できることが理想です。だから、自分の気持ちを我慢します。

自分の行動が、他の人にどんな影響を与えるか。それをいつも考えます。

人に迷惑をかけたときはすぐに謝るのが礼儀です。関係を直すためです。

親切にしてもらったときも相手の時間を使わせました。それを申し訳なく思います。

人に何かを頼むときも相手の時間を奪います。だから、まず謝るのです。

この考え方は、日本の「おもてなし」の心にもつながっているでしょう。

おもてなしとは、相手に心から喜んでもらうこと。お返しを期待しません。

相手がどう感じるかを先に想像して行動します。これが、おもてなしです。

「すみません」という言葉は相手の気持ちを想像することから生まれています。

自分より、まず相手を先に考えるという文化です。これが謙虚な態度です。

もちろん、時代とともに少しずつ変わっています。若い人は違うかもしれません。

もっと直接的に「ありがとう」や「ごめん」を使うことも増えました。

でも、多くの日本人の心の中には、まだこの相手を思う気持ちがあります。

もし日本人があなたに「すみません」と言ったらその場面をよく見てください。

謝っているのでしょうか。感謝しているのでしょうか。それとも、用事がありますか。

その言葉の裏にある本当の気持ちを考えてみると会話がもっと深まります。

言葉の意味は一つだけではありません。文化や社会が作ります。

「すみません」という言葉は日本文化を理解するととても良い鍵になります。

この複雑で、少しはっきりしない言葉を使いこなせたら、日本語がもっと楽しくなります。

日本の社会や人々との関係が、より良いものになることを願っています。

今日は、日本の言葉の奥深さに触れてみました。いかがでしたでしょうか。

みなさんも、日本の文化の面白いところを、たくさん見つけてみてください。

お疲れ様でした。最後まで見てくれてありがとうございます。

今日の動画はいかがでしたか？動画の感想や意見をぜひコメントで教えてください。

また、たくさん動画を作れますので、グッドボタンとチャンネル登録、ハイプをよろしくお願いします。

それではまた別の動画でお会いしましょう。